

「お客さま本位の業務運営に係る取り組み方針」

取組結果（2018年4月～2019年3月）

2019年5月31日

T&Dアセットマネジメント株式会社

[方針1] より良い商品・サービスの提供①

1. 主要ファンドの運用パフォーマンス

- 当社では、お客さまの多様なニーズにあった質の高い商品を提供するとともに良好な運用パフォーマンスを達成することが、重要なお客さま本位の業務運営であると考えています。
- このため、全ての公募投信の運用報告書において基準価額の騰落率（分配金再投資ベース）を公表しています。また、ベンチマークを設定しているファンドについては、ベンチマーク対比も公表しています。
- 主要ファンドの運用パフォーマンス（2018年4月～2019年3月）の状況は下表のとおりです。

主要ファンドの運用パフォーマンス（2018年4月～2019年3月）

ファンド名	基準価額の騰落率 (分配金再投資ベース)	ベンチマーク・ 参考指標リターン	超過収益率	ベンチマーク・参考指標	
アクティブバリューオープン	-8.56%	-7.26%	-1.29%	東証株価指数 (TOPIX)	ベンチマーク
大同リサーチ&アクティブオープン	-4.61%	-7.26%	2.66%	東証株価指数 (TOPIX)	ベンチマーク
青のライフキャンバス・ファンド (標準型)	-0.07%	0.02%	-0.09%	合成指数 (注1)	ベンチマーク
赤のライフキャンバス・ファンド (積極型)	-0.67%	-0.90%	0.23%	合成指数 (注2)	ベンチマーク
世界優良株ファンド (3カ月決算型)	8.72%	9.85%	-	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算)	参考指数
T & Dインド中小型株ファンド	-6.72%	-5.01%	-	Nifty Midcap100 (円換算)	参考指数
国内株式 (ESG運用)	-5.26%	-5.04%	-0.22%	東証株価指数 (TOPIX) 配当込み	ベンチマーク
リビング・アース戦略ファンド (年2回決算 コース)	-2.54%	-	-	-	-
ロボット戦略 世界分散ファンド	1.37%	-	-	-	-
ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド	設定来1年を経過していない ため記載しておりません	-	-	-	-

(注1) 東証株価指数 (TOPIX) 33%、NOMURA-BPI総合38%、MSCI-KOKUSAIインデックス (除く日本、円ベース) 15%、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) 12%、および短期金融資産2%を独自に合成し、指数化したもの。

(注2) 東証株価指数 (TOPIX) 44%、NOMURA-BPI総合23%、MSCI-KOKUSAIインデックス (除く日本、円ベース) 17%、FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) 14%、および短期金融資産2%を独自に合成し、指数化したもの。

(注3) 参考指数は、投資対象資産の市場動向を確認いただくための指数であり、ベンチマークではありません。

東証株価指数 (TOPIX) とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIX に関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

MSCIコクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

NOMURA-BPI総合は、日本国内で発行される公募債券流通市場全体の動向を的確に表すために野村證券が開発・公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

出所：東京証券取引所、MSCI、野村證券株式会社、FTSE Fixed Income LLC、Bloomberg

2. 主要ファンドの運用パフォーマンス

主要ファンドの騰落率（設定来、過去3年間、1年間）

ファンド名	設定年月	基準価額の騰落率 (分配金再投資ベース)		
		設定来	3年	1年
アクティブバリューオープン	1996年2月	106.85%	27.40%	-8.56%
大同リサーチ&アクティブオープン	1999年6月	54.86%	28.25%	-4.61%
青のライフキャンパス・ファンド(標準型)	2000年2月	34.96%	12.73%	-0.07%
赤のライフキャンパス・ファンド(積極型)	2000年2月	32.20%	16.47%	-0.67%
世界優良株ファンド(3ヵ月決算型)	2003年9月	113.57%	25.64%	8.72%
T&Dインド中小型株ファンド	2011年2月	185.56%	30.27%	-6.72%
国内株式(ESG運用)	2015年7月	22.42%	27.76%	-5.26%
リビング・アース戦略ファンド(年2回決算コース)	2016年6月	-7.01%	-	-2.54%
ロボット戦略 世界分散ファンド	2016年9月	7.76%	-	1.37%
ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド	2018年7月	3.05%	-	-

[方針 1] より良い商品・サービスの提供③

3 . お客さまのニーズにあった商品の提供および販売促進

- 当社は、お客さまの多様なニーズにあった質の高い商品の提供に努めています。
- 公募投信では、多様な資産を投資対象とした長期分散投資機会をお客様にご提供するために「ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド」を設定しました。
- 幅広いご投資家層に取り組んで頂き易いよう、元本確保を目指しつつ日本国債以上のリターンが期待できる「モルガン・スタンレー社債 / マルチアセット運用戦略ファンド（愛称：攻守の果実）」を設定しました。
- 私募投信では、低金利の環境下でも安定的かつ相対的に高いイールドをお求めになるお客様のニーズにお応えするため、マルチアセット戦略商品や基軸通貨以外の通貨を利用した商品の設定を行いました。
- 投資顧問では、低金利・金利上昇懸念がある市場環境下で、金利上昇リスクを抑えつつ比較的高い利回りが期待できる米国短期ハイイールド債券ファンドを年金基金に組み入れました。

4 . 日本版スチュワードシップ・コードの改訂への対応

- スチュワードシップ活動の品質向上を図るため、「スチュワードシップ責任を果たすための基本方針」を制定しました。
- スチュワードシップ活動に社外の意見を反映させるため、社外取締役が社外委員として、スチュワードシップ活動委員会に参加する体制としました。

5 . 議決権行使の個別開示

- 2017年4月以降開催された株主総会から四半期ごとにホームページにて公表しています。

[方針 2] お客様本位の情報提供

1 . 手数料その他費用の明確化

- 当社は、お客様にご負担いただく手数料その他費用について、目論見書等において公表しています。
- 商品開発にあたっては、コスト・収支分析等を実施することにより、運用報酬等が適正水準にあることを検証しています。

2 . わかりやすい情報の提供

- 当社は、お客様に商品の仕組みや運用成果等をご理解いただくため、わかりやすい目論見書、運用報告書等の作成に努めています。
- 一部UDフォントを使用してフォームの統一化を進め、信託報酬の基準価額への影響を詳細に記述するほか、従来は羅列され役務と対価が一覧になっていないファンドについて信託報酬の一覧表に各役務を入れるなど、公募投信の目論見書の記載についてよりわかりやすい内容とするよう見直しました。
- 一部の公募投信の月報においては、運用手法（あんしんロボの自動ブレーキ機能）や保有資産の状況（リビングアースのCATボンド）のグラフを追加し、お客様に視覚的にご理解していただく工夫をしました。
- 私募投信では、複数のリスクを内包する複雑な商品（マルチアセット型商品）において、お客様のリスク管理向上に繋がる追加情報（債券先物・株式先物・先物為替のウェイト、修正デュレーション、金利感応度）をマンスリーレポートに掲載しました。
- 勉強会・セミナーを実施し、商品の特色や運用状況の説明に努めました。
2018年度は投資家向けセミナーを41回、販売会社向け勉強会は174回開催しました。
- 2018年度に新規設定した「ロボット戦略Ⅱ 世界成長ファンド」については、お客様のファンドの内容に対するご理解を促進するために商品説明の動画を作成し、HP上から直接アクセスできるようにしました。
- 日経平均株価指数が前営業日比で3%超下落した場合に、投資家向けに幅広く情報提供を行うべく、「TDAMマーケット・レポート」を作成し、当社HP上に可能な限り迅速に開示することにしました。

[方針 3] 業務運営の質の向上

1 . 販売会社アンケートの実施

- 2019年3月、当社商品をお取扱いいただいている販売会社にアンケートを実施し、当社および当社商品等に対する満足度等を調査しました。
- アンケート結果（下表参照）を踏まえ、お客さま本位の業務運営に従ったよりよい販売促進活動に活かせるよう努めます。アンケートに関しては、引き続き改善を加えるなどして、今後も定期的に行う予定で実施して行く予定です。

		とても良い	良い	普通	あまり 良くない	悪い
Q1	弊社に対する印象はいかがですか？		64%	29%	7%	
Q2	照会事項に対する弊社の対応は適切ですか？	21%	50%	29%		
Q3	照会事項に対する弊社の対応は迅速ですか？	36%	29%	36%		
Q4	弊社作成資料のデザイン・レイアウトの印象はいかがですか？	8%	42%	50%		
Q5	弊社作成資料の内容は分かりやすいですか？	15%	38%	46%		
Q6	弊社講師による投資家向けセミナーでの説明は分かりやすいですか？	13%	50%	25%	13%	
Q7	弊社講師による投資家向けセミナー開催後のフォローアップは適切ですか？		50%	38%		13%

2 . 苦情等管理態勢の見直し

- よりお客さまの声を経営施策に反映できるよう苦情等の定義を明確化し、「苦情処理および紛争解決の取扱いに関する規程」の改正を行いました。

利益相反取引の適切な管理の継続的な実施

- 2018年3月期決算においても、当社およびグループ会社の関係先である企業に対する議決権行使が議決権行使ガイドラインに沿って適切に行使が行われていることを検証し、取締役会に報告を行いました。

[方針 5] 「お客さま本位」の行動を実践する人材の育成等

全社研修の実施

- 「お客さま本位」の行動を実践する人材を育成するため、お客さま本位、コンプライアンス、情報セキュリティ等、様々なテーマの全社研修を実施し、各テーマ毎にその意義や重要性の周知を図りました。
- 2018年度に実施した主な研修は下表のとおりです。

実施時期	研修テーマ
4月	コンプライアンス・マニュアルの周知、マナー・ローンダリング防止
5月	お客さま本位の業務運営に係る取組み状況
5月・7月・10月・2月	コンプライアンス・プログラム実施状況、法令等違反事例等の紹介
7月	デンマーク・カバード債の魅力
9月・3月	情報セキュリティ管理態勢・サイバーセキュリティの動向
10月	スチュワードシップ活動、金融行政方針
11月	インサイダー取引規制
12月	人権啓発
2月	反社会的勢力対応態勢

「お客さま本位の業務運営」の取り組み状況の取締役会報告

- 「お客さま本位の業務運営」の取り組み状況について、取締役会に定期的に報告することとし、2018年10月度取締役会において、2018年度上半期の取り組み状況を報告しました。